

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所すくすく親子教室		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 6日		～ 令和8年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	124人	(回答者数) 115人
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 6日		～ 令和8年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数) 18人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子教室であること	<ul style="list-style-type: none"> 保護者にも実際に関わってもらうことで、こどもへの関わり方を知ってもらえるようにしている。 必要に応じて個人懇談の日を設けたり、療育時間を利用して保護者の相談対応をするなど、こどもへの対応について確認する機会を作っている。 	保護者の思いに寄り添い、こどもたち一人ひとりにとって何が必要なのか共通理解できるように努めていく。
2	活動スペースの確保がされている。	<p>体育遊具を設置するときは、各グループのこどもの年齢や発達課題を考慮しつつ、様々なからだの動きが経験できるようにしている。</p> <p>広い空間なので、活動内容に合わせて机やパーテーションを使うなど、環境構成を工夫して様々な取り組みを実施している。</p>	普段経験することができないような大型遊具を取り入れたりこどもが飽きないような工夫をしながら、経験の積み重ねを通してできることが増えるよう、これからも取り組んでいきたい。
3	職員研修の実施	こどもの行動を理解し支援できるように、年間計画を立てて定期的に職員研修をしている。	経験年数に違いはあるが、こどもの理解等に共通認識が持てるよう、話し合う時間を確保できるようにしていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害等の対策についての情報発信が不十分なところがある。	計画作成、訓練実施等について契約や入室時に説明をしているが、周知が十分ではない。	災害等の対策について、具体的でわかりやすい説明を丁寧に行っていくことや周知の工夫を図る。
2			
3			